第25回

## MASセミナー



「<sub>クリアイティブ[アーツ]コア</sub> 隠された領域を拓く」

> 日時:2017/7/1(土) 講演:14:00~16:00



「専門性を束ねるもの」

世界中が高学歴社会となり、細分化、専門性がすすんだ、その結果便利なものが溢れる社会になったが、どういった到達点を目指しているのかは見えてこない。スペシャリストを並べているが力は束ねられていないと感じることが多い。名を成したある物理学者は小学生の頃かならずしも優等生ではなかったという、自然の中で遊びながら学び、子供時代を過ごし好きな道をみつけたという。希望をまず持つことがだれに取ってもいつの時代にも是非必要なことだ。そこから真の方向が見える、そう行った成長がなくて人を束ね最良の

結果に導くことは困難であ ろうと想う。

今井 均

人口減、超高齢化、IT 化の進む日本社会に迫る多くは「見えている問題」。でも「見えにくい問題」もあるはず。それは明治維新から150年を経て、ある意味での安定を得た現在にこそ見えてきたもの

- で、近代産業化も含めて日本人の体質に関わること。 1・知識人ほど頭は働くが、五感に弱い(感性劣化) 2・自分の考えより、公知認識に従う(主体の外在性)
- 1・脳で考える分、体の機能(視聴覚・五感・体感)は働かない。というより体感を軽視することにも。逆に理性的なものへの無防備な信頼が高まる。
- 2・自分より、信頼すべきは外部(公知認識、法制、 データ、メディア情報など)にあると感じる。だか ら「逆らえないもの」は放っておくことにも。その 結果一般に、自分の行動を自分で決めるほど、自分 の考え方が産まれない。



「日本人の限界」

更に各項を説明すると、

これらが入り交じって現在の日本 人とその限界を形成していない か?

大倉冨美雄

「当たり前の不便を解決してくれるものが欲し い。」

時差解消機、自分用にカスタマイズされた同時 通訳マシン、電池切れしない電池、夏が暑すぎ ること、男子用の日傘でカッコいいやつ、話し かけられた相手の名前を思い出させてくれるス マホアプリ、お金以外の普遍的な対価の支払い 方法、仲直りの方法、理解力と表現力の落差を 埋める仕組み。人間は空想できたことは概ね実 現できていると言われていますが、誰も空想で きていないことを発見する方法ってあるので しょうか?



黒木 正郎

「クリエイティブ〔アーツ〕コア」

「建築」とは、この世界には数字に置き換えられない大切なものが有るということを人々に実感させる存在で在ってもらいたい。経済原理の中で消費される商品で在ってはならない。そもそも建築とは、様々な領域を結びつけるプラットフォームの役割を担っていた筈です。私は、彫刻家・画家・映像作家・照明家・コンピュータサイエンティストとのコラボレーションにより、感性に応える建築空間創りを目的としたヴァーチャルグループ"Art C'est la vie (アール・セラヴィ)"での経験を

もとに、「クリエイティブ〔アーツ〕コア」に

ついて考えて見たい。



武田有左

「クリエイティブって何?」

リチャード・フロリダの「クリエイティブ 都市論」の発刊から10年。クリエイティブ な人間は大都市を好み、経済生産性も高く、 起業家に向いているらしい。一方で、アー ティスト、建築家など、個人の感性を掘り 下げ、見えない芸術的価値の実現を目指す 人たちは、消費される流れに抵抗しつつ、 経済社会に対峙するという葛藤の多い職業 人でもある。人間的な感性や個性、多様性 を尊ぶ社会の実現には何が必要なのだろ う?地域とのつながり、人の信頼といった 「社会関係資本」が求められる時代、人間の クリエイティビティの意味や役割を考えた

田口 知子





「地域の文化を消滅させないために」

近代以前の「芸術家」はパトロンの支配のもと都市の中で【コア】となった。都市や地域でも文化が醸成された。今は経済原理のデザインが蔓延し、東京の文化が地域文化を吸い上げ喪失させていく。そんな中で、地域を見出し地方に埋もれた宝【伝統的な文化や商品】をブランディングして全国展開させている人たちがいる。感性を研ぎ澄ませて地域の文化に自身のデザインを加え世に出していく。忘れていた「暮らし」の視点を見出す。小さな造り酒屋を小さな予算で、地域から美しいブランドを立ち上げ世に出す。ネットを通じ全世界まで商品を提供していく。クリエイティ



ブアーツ【コア】には、そ うした「新しい視点を提示 する力」が必要なのではと 思う。いつまでもフレッ シュな感性で。

宮田多津夫

「天賦の才にリスペクトを」

出身が東京芸大の建築科であったことから絵・彫刻・工芸・デザイン・音楽分などのアーティストの卵とは日常的皮膚感覚で時間を共有していました。圧倒的な才能の差は歴然で、一見同じかたちを描写しても捉える眼、一筆の力の圧倒的な差に驚愕したものです。このことから学んだことは、紙一重で素人目に差がわからないことでも、本物をリスペクトしてコラボレーションしないといけない、未来の子供たちに残すものこそ領域を独占しないで領域を拓いていくことが大切だということでした。経済原理でフェイクのモドキ芸術を巻にばらまいてはいけません。



村上晶子

「街づくりに活かそう建築家の創造的調整能力」

建築家は、その仕事柄、調整能力を有しています。

建築設計は施主のニーズに応えるという目的実現のために、予算、法規、構造、設備など諸条件をバランスよく調整しまとめる職能です。これは、街づくりにも力を発揮します。行政と市民との調整、多様な異なる立場を有する市民間の調整などが求められる中、折り合いをつけ

是非、建築家を街づくりに利用しましょう!

的なものを生み出すことができます。

るのみならず win、win の関係をつくり、創造



連健夫